

復興まちづくり・災害遺構研究会

(概要)

主催：(科研)基盤(B)海外学術調査

復興・防災まちづくりとジェンダー

共催：神戸復興塾3.11支援集会

2016年2月10日

文責：山地久美子

趣旨説明

山地久美子(大阪府立大学客員研究員)

- 6年目を迎える東北被災地のこれからを
阪神・淡路大震災の復興経験から考える
- 「東日本大震災の復興の基本方針」改訂と「観光」
- 被災地の声を聞く、届ける
- 復興庁「観光アドバイザー会議」
被災地から 南三陸ホテル観洋の阿部憲子女将

第1回東北観光アドバイザー会議

阿部憲子委員資料(抜粋)

東北観光の課題とアイデア

- ①観光情報の発信と手段【地域・自然特性・歴史・文化・郷土芸能等】
- ②人材育成と人材交流【観光ガイド・語り部ガイドの育成等】
- ③環境整備(施設・設備等ハード面の整備)【滞在型・地域行事】
- ④特産品の改善・開発(東北ならではの食の魅力の発信)
- ⑤交通アクセス面の改善【交通ネットワークを線で結ぶインフラ整備】
- ⑥広域的な観光連携強化【三陸の観光ルートを作る】
- ⑦観光資源を結ぶプラットフォームづくり
- ⑧外国人観光客受け入れ体制の整備
【ひとづくり、組織づくり等やインフォメーション整備】

☆ダークツーリズムではない観光イメージ戦略の模索

被災地
の声

課題提起

小森星児(神戸復興塾)

- 21年前の阪神・淡路大震災の被災者である
- 70年前の戦争をどう伝えることができるのか
- 昭和16年12月8日
- ダークツーリズムの体験者
 - 昭和天皇ではないか一半年間のイギリス体験
- 歴史が“はまる”瞬間があるのではないか

フंक・カロリン 第1報告 ①

- 冷戦
- ポストモダン → 開発を是とする
- 公害
→ 近代化が起こす悲劇
- 教育は楽しみを伴う education
entertainment
- 遺産がはやる
- educational tourism 「学ぶ観光」
- 被害者—加害者 震災は場所と階層により違う

日本の災害 ②

- 広島 日本災害のダークツーリズムサイト
- 公害 水俣
- 産業化遺産
- 大川小学校？
- 福島
- 神戸 海一山 都市計画
- 追悼—記念の場所
- 人と防災未来センター／野島断層保存館
- 美しい街をつくるルール
- 体験—語り部 神戸まちづくり研究所
- まちコミ—課題 メッセージ 行政はあてにならない —私
- 街が変わってきて、どうするか 「自分たち」
- 本当のことは 「不協」を伝えること

井出明 第2報告 ①

- 。ダークツーリズム — 戦争・災害
- ・目的は多様である
- ・福島第1原発観光地計画
- ・がれきで棟をつくる
- ・人が亡くなった遺構は残さない
- ・「見るのが辛い」のは行政の都合ではないか
- 大川小学校 ハードウェアを残したくない
- ・原子力明るい未来のエネルギー 撤去
- ・「住民多数決」で良いのか

記憶継承の問題点 ②

- 防災学者は防災しか見ない
- 連続性の観点から捉えていない
- 社会的災害 木造住宅—社会的要因
- きれいなことしか記憶しない
- 山口組
- 米国 — アルカポネ
- 日本の復興博物館
- 復興ツーリズムとダークツーリズム、は違う
- 地域の人嫌がっても承継すべき価値
- 地域の人との集まりの場所になっていない

③

- アメリカ国立葬式博物館
- ヨーロッパ型ダークツーリズム
- 震災遺構を残す
説得力がない
ハードがなくなると記憶が無くなる
- バンダ・アチェ 遺構 神の作れたもうた世界
- ゲルニカ ー長田と似ている

野崎隆一 コメント(配布)

コメントの代読
(野崎瑠美氏)

(別紙参照)

林勲男 コメント

- 震災遺構に特化してコメント
- 「観光とは呼んでほしくない」
- 「ツーリズム」
- 客の側－ホストの側－産業従事者

(コメントは別紙にまとめ有)

全体討論

省略

(質問は別紙)

まとめ

小森星児

●人と防災未来センター

原爆記念館 — — —

現実をどれだけ伝えることができるのか

●神戸復興塾 あいウォーク

— — — 案内をするけれど
解釈は個々人に任せる

●人々の営み、生活を伝える手段

【告知】 2016年3月21日、22日

全国被災地語り部シンポジウム 開催

於：南三陸ホテル観洋、南三陸町内

http://www.mkanyo.jp/brochure/2016_0321_22symposium.pdf

6年目を迎える被災地が主体となって企画。

阪神・淡路大震災の経験、北淡震災記念公園野島
断層保存館との共同開催（実行員会形式）

10年、20年後の語り部、地域の未来を考えます